

2020年3月期 中間決算 説明資料

2019年11月14日
日本貨物鉄道株式会社

1. 2020年3月期 中間決算
2. 2020年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

1. 2020年3月期 中間決算

連結経営成績

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 中間期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業収益	880	971	+91	+10.4
営業費用	870	908	+38	+4.4
営業利益	9	62	+52	+538.5
経常利益	5	59	+53	+956.4
親会社株主に帰属する 中間純利益	-13	37	+50	—

単体経営成績

営業収益	712	783	+70	+9.9
営業費用	709	730	+20	+2.9
営業利益	3	53	+49	+1,373.2
経常利益	-3	47	+50	—
中間純利益	-18	29	+48	—

- 昨年7月の「平成30年7月豪雨」等自然災害の影響から回復し、また基本運賃改定等の営業施策の推進の効果もあり、単体の運輸収入および子会社の利用運送事業収入が大幅に増加し、連結営業収益は増収、連結営業利益・経常利益ともに増益。親会社株主に帰属する中間純利益も、大幅増益となり黒字を確保。(前期は「平成30年7月豪雨」の対応に伴う費用等の災害損失(21億円)を計上した)

1. 2020年3月期 中間決算

セグメント別状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

		2019年3月期 中間期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前年同期	
				増減	%
鉄道ロジスティクス事業	営業収益	771	864	+92	+12.0
	営業利益	-46	9	+55	—
不動産事業	営業収益	112	109	-2	-2.3
	営業利益	55	52	-2	-4.0
その他	営業収益	52	53	+0	+1.8
	営業利益	0	-0	-0	—

(単体) 事業別状況

鉄道事業	営業収益	622	696	+73	+11.9
	営業費用	672	694	+21	+3.2
	営業利益	-50	1	+52	—
関連事業	営業収益	90	87	-3	-3.4
	営業費用	36	35	-0	-2.7
	営業利益	54	51	-2	-4.0

- 単体の鉄道事業は事業別開示を開始して以来、**中間決算として初めての黒字達成**。自然災害からの回復、営業施策（基本運賃改定）の推進により**増収増益**。
- 不動産事業は、子会社の警備収入が増加したが、単体の分譲マンション収入（茅ヶ崎、八王子）の影響により減収減益。

1. 2020年3月期 中間決算

連結財政状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	4,057	3,953	-103	流動資産 603億円 (対前期末 -60億円) 固定資産 3,350億円 (対前期末 -42億円)
負 債	3,088	2,948	-140	
純 資 産	968	1,005	+37	
自己資本比率	22.6	24.2	+1.6	

連結キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 中間期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	29	89	+59	+199.5
投資活動によるキャッシュ・フロー	-43	-87	-43	+101.7
財務活動によるキャッシュ・フロー	34	-62	-97	—
現金及び現金同等物の増減額	21	-60	-81	—
現金及び現金同等物の期末残高	262	211	-51	-19.7

- 営業活動によるキャッシュ・フローは利益の増により流入額が増加。投資活動によるキャッシュ・フローは固定資産取得により流出額が増加。財務活動によるキャッシュ・フローは長期借入金の返済により流出額が増加。現金及び現金同等物は60億円減少し、期末残高は211億円。

1. 2020年3月期 中間決算

単体財政状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前期末 増減	備考
資 産	3,688	3,567	-121	流動資産 404億円 (対前期末 -85億円) 固定資産 3,163億円 (対前期末 -35億円)
負 債	2,985	2,833	-151	当期末長期債務 1,593億円 (対前期末 -64億円) ・有利子債務 677億円 (対前期末 -50億円) ・無利子債務 915億円 (対前期末 -14億円)
純 資 産	703	733	+29	

単体キャッシュ・フローの状況

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 中間期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
営業活動によるキャッシュ・フロー	15	56	+41	+264.8
投資活動によるキャッシュ・フロー	-42	-77	-34	+82.6
財務活動によるキャッシュ・フロー	18	-78	-96	—
現金及び現金同等物の増減額	-8	-99	-90	+1,055.5
現金及び現金同等物の期末残高	169	104	-65	-38.2

1. 2020年3月期 中間決算

品目別輸送実績表

(単位：千トン、単位未満切捨て)

	2019年3月期 中間期 実績	2020年3月期 中間期 実績	対前年同期	
			増減	%
輸 送 量	13,243	14,446	+1,203	+9.1
コンテナ	9,268	10,419	+1,150	+12.4
農産品・青果物	707	777	+69	+9.9
化学工業品	859	947	+87	+10.2
化学薬品	600	675	+75	+12.6
食料工業品	1,700	1,794	+93	+5.5
紙・パルプ	1,198	1,302	+103	+8.7
他工業品	671	749	+77	+11.5
積合せ貨物	1,191	1,411	+220	+18.5
自動車部品	335	451	+115	+34.4
家電・情報機器	182	211	+28	+15.8
工口関連物資	208	289	+81	+39.0
その他	1,613	1,809	+196	+12.2
車 扱	3,975	4,026	+51	+1.3
石油	2,619	2,679	+59	+2.3
セメント・石灰石	663	653	-9	-1.5
車両	387	403	+15	+4.0
その他	304	290	-13	-4.6

- 昨年7月の「平成30年7月豪雨」等自然災害の影響から回復し、**コンテナはすべての品目で前期を上回る**。特に、各地で鉄道へのシフトが進む**積合せ貨物**、新規輸送等が好調な**自動車部品が大幅に上回る**。

1. 2020年3月期 中間決算
2. 2020年3月期 業績見通し
3. 主な取組みの進捗状況

2. 2020年3月期 業績見通し

連結

(単位：億円、単位未満切捨て)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 見通し	対前年同期		2020年3月期 前回見通し (2019.5.15)
			増減	%	
営業収益	1,916	2,008	+91	+4.8	2,029
営業利益	58	121	+62	+107.9	124
経常利益	45	109	+63	+141.2	109
親会社株主に帰属する 当期純利益	-2	66	+68	—	74

単体

営業収益	1,558	1,655	+96	+6.2	1,656
営業利益	44	108	+63	+143.7	112
経常利益	30	95	+64	+215.8	97
当期純利益	-9	58	+67	—	68

- 業績見通しは、10月に発生した水害による影響が見込まれるものの、積極的な営業活動と関連事業等の収益力向上を図り単体の営業収益を確保し、2016年度、2017年度に続き、再び、連結経常利益100億円以上の見通し。連結営業収益は増収、連結営業利益、連結経常利益も増益、親会社株主に帰属する当期純利益は黒字の見通し。

参考：連結経常利益の推移

2017.3月期 (2016年度)	2018.3月期 (2017年度)
103億円	104億円

- 東京レールゲート開発をはじめとする将来の成長につながる取組みも強力に推進していく。

1. 2019年3月期 決算

2. 2020年3月期 業績見通し

3. 主な取組みの進捗状況

■ 総合物流企業への実現に向けた取り組み

▼ 東京レールゲートWEST

- ・ 6階建て（貸床は2～6Fの5フロア）、貸床面積 43,291㎡
- ・ 2020年2月25日竣工、3月1日テナント引渡開始予定
- ・ 建設工事は順調に進捗中



← WEST建設状況
10/31敷地北東側から

▼ 東京レールゲートEAST

- ・ 5階建て、貸床面積 144,000㎡（基本設計による計画）
- ・ 1フロアあたり26,700㎡を超える貸床面積を確保
- ・ 2020年11月着工、2022年8月竣工予定



↑ 基本設計時のWEST&EAST 鳥瞰パース

▼ 貨物駅の高度利用化による物流生産性向上

- ・ 旧来から駅構内にある平屋建ての施設を多階層に建て直し、貨物駅の高度利用化を推進
- ・ 東福山駅：2020年8月竣工予定
- ・ 生み出した用地を“積替ステーション”等に活用を検討

取組事例：東福山駅 改良イメージ

改良前



写真：Googleより引用

改良後



写真：Googleより引用

■ 業務創造推進プロジェクト

▼ ITインフラの刷新

社員意識、企業風土変革を醸成し、“働き方改革” “業務創造推進プロジェクト” を実現するツールとして、ITインフラを刷新

① 働き方改革として

- ・ OA端末をモバイル化
- ・ 会社支給スマホ・部署代表スマホの導入

② コミュニケーションの促進として

- ・ ファイルサーバやメールの容量拡大
- ・ ポータルサイトの充実
- ・ Teams (チャット/TV電話) の導入

モバイル化



ポータルサイトの充実



Teams (チャット/TV電話)



■ 新たな技術の活用

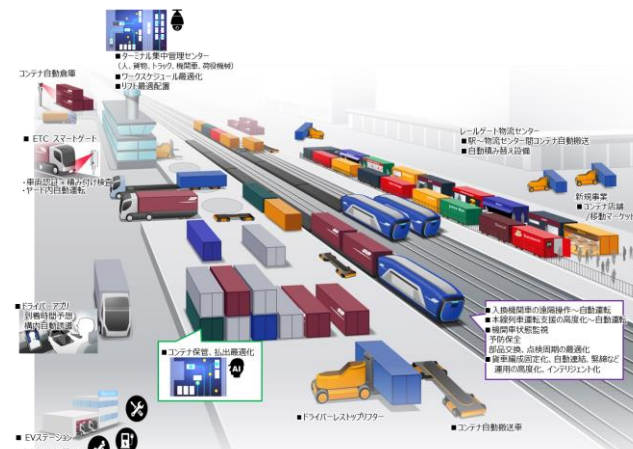
今後想定される人手不足・技術の急速な進化に鑑み、「貨物駅の作業の見直し」「AI・IoTの活用研究」に関する技術開発に着手

① 労働集約型業務が多く存在する貨物駅の作業の見直し

- ・ 構内トラックの無人運転
- ・ フォークリフト運転操作の遠隔化~自動化
- ・ 入換機関車の遠隔操縦
- ・ 次世代コンテナ貨車の開発~緊締装置の検討

② AI・IoTの活用研究

- ・ 機関車、貨車のIoT化
- ・ AIを使った事故関連事象の推定

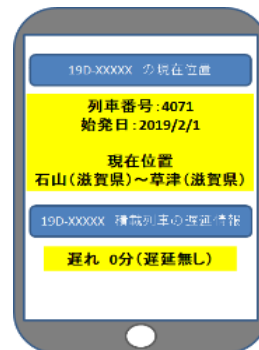


将来のスマートターミナル(イメージ)

■ システム化による仕事の仕組みの改善

▼ トラックドライバー用アプリ導入

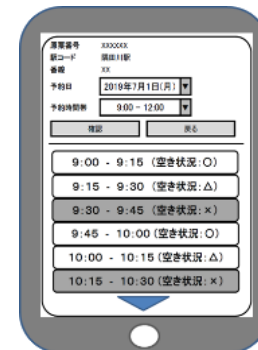
- 貨物駅構内でのトラックの荷役作業の円滑化、安全性向上と、貨物駅構内に入出りするトラックドライバーの利便性向上を図るため、トラックドライバー向けアプリを検討中
- 将来的には、ドライバーシステムと統合予定



列車位置・遅延参照



コンテナ位置参照



持出・持込予約

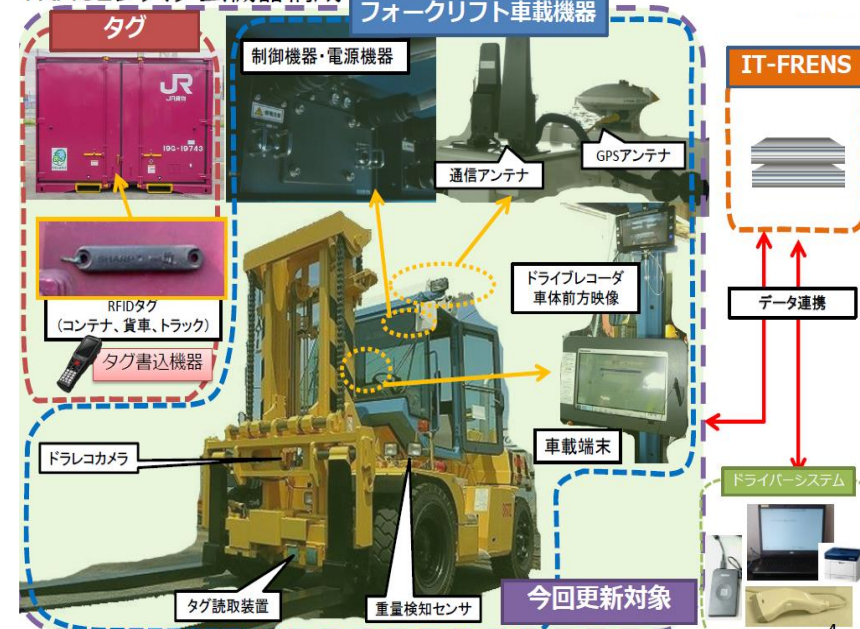
▼ TRACEシステム*の更新

* Track and Rail-way Combinative Efficient-system

… 貨物駅構内のコンテナ位置情報を一元管理するシステムで、コンテナの積卸を行なうフォークリフトに取り付けている車載機器とコンテナ・貨車・トラックに取り付けているタグから構成している

- 更なる安全性および荷役作業効率の向上、様々なデータ蓄積・活用が目的
- 新型RFIDタグへの更新、フォークリフト車載機器の更新、関連システムのアプリケーション改修、ビッグデータ収集・分析のための新サーバ構築
- 新型RFIDタグ取付
 - … 2020年4月~2021年10月予定
- TRACE車載機器の更新
 - … 2021年10月~2022年10月予定

TRACEシステム機器構成



〔当社グループの事業系統図〕

